

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

英語

生徒の活動が主体の授業で、

英語の楽しさを体感させる

東京都立福生高校 ふっさ
内野良昭 よしあき

本時の概要

【対象／教科／科目】1年生／英語／英語コミュニケーション1 【分野・単元】Lesson6 Washoku
 (和食)・関係代名詞(本時は、全9時間のうちの4時間目。P.49に本時の指導計画を掲載)
 【育成を目指す資質・能力】思考力、判断力、表現力、主体性、協働性
 【学習内容】単元目標の「和食の特徴を英語で説明する」の到達に向けて、前時に続き、和食の特徴をテーマにした素材文の読解を、新出単語の復習、素材文の音読や和訳を通して行った。多くの活動において、個人の黙読や音読、ペアでの音読を行った。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

9:45 ウォームアップ



主
対

4人1組になり、出題者役の1人が、内野先生が提示した単語について英語で説明し、解答者役の3人が何の単語かをあてるゲームを、役割を変えて4回行った。次に、「Your favorite food」をテーマに、1分間のチャットをペアで行った。

10:10 キーセンテンスの練習



主

関係代名詞を使ったキーセンテンスを内野先生が解説。生徒はそれを音読筆写した後、アイコンタクトを意識して言えるかをペアでチェックした。内野先生とJETは、5秒以内にその文が言えるか、1人ずつ確認。言えなかった生徒は再び番が来るまで、できた生徒を相手に練習した。

うちの・よしあき 教職歴26年。同校に赴任して4年目。指導教諭。総務部主任。英語科。大学卒業後、在外公館派遣員として在ボンベイ日本国総領事館に2年間勤務。ワーキングホリデーでカナダに1年間滞在、社団法人勤務後、教職に就く。

学校概要

◎教育目標は「清純・友愛・誠実」。2019年度、東京都教育委員会「進学アシスト校」「英語教育推進校」の指定を受け、オンラインを活用した国語・数学・英語の受験対策練習、1・2年生全員を対象とした英語4技能検定試験の受験などを実施している。

◎設立 1971(昭和46)年

◎形態 全日制・定時制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約240人(全日制)

◎2021年度進路実績(現役のみ) 私立大は、駿河台大、獨協大、亜細亜大、嘉悦大、杏林大、国立音楽大、工学院大、駒澤大、成蹊大、専修大、帝京大、東京経済大、東京工科大、東洋大、日本大、日本体育大、武蔵野大、明星大、目白大などに延べ108人が合格。短大・専門学校進学130人。就職8人。公務員3人。



9:55 本時の目標の提示と内容理解



内野先生は、本時の目標を「和食の特徴を英語で説明する」と提示し、素材文には和食の特徴が4つ書かれていることを説明。生徒は素材文を1分間黙読してから、読解したことをペアで説明し合った。内野先生が素材文の解説をした後、JET(*1)の発音を手本に素材文の音読を繰り返した。

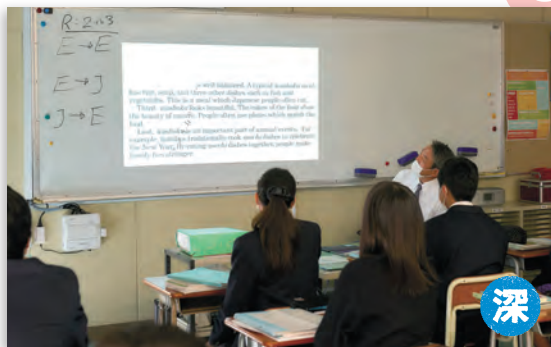
9:50 新出単語の復習



前時に学んだ素材文の新出単語を、内野先生の音読に続き全員で発音した後、左に英単語、右に日本語での意味が書かれたプリントを2つ折りにし、交互に見ながら個人で練習。次に、言われた日本語を英語で答える活動をペアで行い、答えられなかった単語はその場で5回発音し、定着を図った。

本時のキー課題

10:30 定着の確認、本時の自己評価



ホワイトボードに映した素材文から消えた新出単語を先に言う競争をペアで行った後、素材文が文頭から自動で消える中、内容を意識しながら速度を上げて音読した。最後に、授業冒頭と同様、1分間黙読し、自己の伸長を確認。先生は、音読や音読筆写の継続で英語学習が楽になると、生徒に伝えた。

10:22 本時の素材文を習熟



左に意味の塊ごと短くした素材文、右に和訳が記されたプリントで、ペアで音読練習をした。音読の際、生徒はなるべくアイコンタクトをして文字から目を離し、ペアの相手が復唱できるよう大きな声で行った。その後、ペアで素材文を速く音読する競争を2回行い、「Good job!」とたたえ合った。

●私が目指す授業

生徒が楽しく英語を学べる授業を試行錯誤

私はかつて、「分かる授業」こそが「よい授業」だと考え、文法事項をしつかり定着させようと意気込んで授業を行っていました。しかし、教師が話すだけの授業は、大学進学が目標ではない生徒には退屈そうでした。

特に初任校では、授業態度に課題がある生徒がいる中、授業が成り立たないこともありました。そこで、始業の号令時、生徒に名簿順に教壇に立つてもらい、私の代わりに、「Stand up, everyone. Good morning!」と言ってもらうようにしたのです。すると、クラスの雰囲気明るくなり、スムーズに授業を始められるようになりました。生徒が主体的になるためには、生徒自身が「動く」ことが重要であると実感しました。

生徒が動く授業を模索するうちに、希望進路にかかわらず、どの生徒にとっても「楽しい授業」が必要だと考えるようになりました。楽しいから授業に前向きに取り組み、分かることが少しずつ増え、英語力も学ぶ意欲も高まっていくのです。

*1 JET プログラムの参加者として学校現場に赴任するALT。JETと通称されている。都立高校のすべての学年で、日本人外国語担当教員の助手として外国語授業に携わり、教材の準備や英語研究会のような課外活動などに従事している。JETプログラムは、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の協力の下、地方自治体が実施している「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称。

私が考える「楽しい授業」は、仲間と英語でコミュニケーションを取る授業です。仲間とのコミュニケーションは、学校で学ぶ意義でもあります。目標に向けて協力する、ゲーム感覚で競うなど、生徒主体の活動とし、高校卒業後に社会で求められるコミュニケーションツールとしての英語力の育成を図っています。

●私の発問・課題設定の観点
ペアやグループで活動し、楽しみながら協働性を育成

将来どのような職業に就くとしても必要となるのは、目標に向かってチームで協働する力です。そこで授業では、英語4技能を楽しく習得することに加えて、協働の大切さを体験できるようにしています。

ウォームアップの段階からペアやグループで活動をすることで、他者の英語を聞いて自分の英語を振り返ったり、分からないことを教え合ったりしやすくしています。入学直後は、多くの生徒が英語での他者とのやり取りに慣れていないので、最初のうちは、私とJETが手本を見せます。やり取りの方法が分かれば、生徒は楽しんで取り組みます。

文法の指導でも、例えば、2つの例文を示して「どこが違う?」と問いつける際に、仲間と一緒に考えさせるようにしています。そうすることで、文法が苦手な生徒が学習に前向きになることも少なくありません。

生徒が仲間と楽しみながら取り組める課題として、パフォーマンステストや動画制作を実施しています。パフォーマンステストでは、例えば、生徒一人ひとりが作ったスキットを発表し、クラス全員で評価します。登場人物の人間関係や会話のTPOを考えてストーリーを作るように伝えています。英語が苦手な生徒も、ジェスチャーや小道具を工夫しながら、生き生きと発表しています。

動画は、英語によるコマーションや日本文化の紹介などをテーマに、グループで制作しています。制作過程で英作文や発音、ジェスチャーに関する助言をし、観る人を飽きさせない工夫をしようと伝えています。

授業時間内に動画を完成させることは難しく、どのグループも、放課後や週末に録画や編集作業を行っています。授業中あまり発言をしない生徒が、動画の中では笑顔で活発に英語を話していたり、編集作業で思わぬ才能を発揮したりすることがあ

☒ ワードカウント用のワークシート

☆Speakingの力を伸ばしましょう! L6 S2
～ L6 Washoku-Traditional Japanese Dishes を英語で伝えてみしょう! ～

L6のSection1とSection2では、「世界の食文化」「和食の特徴」について学びました。これらのことを英語で学んだので、君たちはその内容を英語で伝えられます。教科書で学んだ内容を自分の言葉(もちろん英語)で伝えることで、理解を深めましょう。最初はあまり話せなくても、同じ話題で繰り返し練習すると、少しずつ話せるようになります。返答練習が大切です。

英語でL6 Section2の内容を、なるべくたくさんパートナーに伝えるために下記の単語や表現を使って練習してください。

Washoku - four main characteristics
 First - fresh ingredients - seasonal ingredients - local area
 Second - well balanced - typical washoku meal -
 Third - looks beautiful - the beauty of nature - plates
 Last - annual events - osecho dishes - family ties

練習した後、パートナーに教科書の内容を自分の言葉で伝えてください。はじめの文は下記の例を参考にしてください。聞いている人は、英語でうなずきながら、下のワードカウンターで何語話せるか数えましょう。

初めの文の例
 Hi, let me tell you about the characteristics of washoku.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
80	79	78	77	76	75	74	73	72	71
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
100	99	98	97	96	95	94	93	92	91

WPM(1分間で話せた語数) 目標: 30秒で30語(1分で60語以上)

・1回目 /wpm ・2回目 /wpm
 ・3回目 /wpm ・4回目 /wpm

今話した内容を、裏面に英語で書きましょう。なるべく文法等のミスがないように気をつけて書いてください。提出されたものはJETの先生たちに添削してもらいます。自分がどのようなミスをするのかわかり、実力をUPさせましょう!!

2016年、全国英語教育研究団体連合会において西 巖弘先生が発表したワークシートを参考に、内野先生が作成。
※学校資料をそのまま掲載。

ります。生徒が動き、楽しく英語を学ぶ学習活動になっています。

生徒が自身の成長を実感できるようにすることも、大切にしています。例えば、単元や授業の冒頭に「できるようになりたいこと」を生徒と共有します。本時では「和食の特徴を英語で説明する」を目標としました。素材文を初めて読む時にその時点での理解度を自己評価し、授業の終盤に同様に素材文を読んで自己評価をして、自分の伸びを自覚させます。

インプットを十分に行った後、素材文の内容をキーワードを使って再現するワードカウンティング(☒)も、生徒が英語力の伸びを実感できる活動です。最初はほとんど英語を言えなかった生徒が、練習を重ねる度に話す語彙数が増えていきます。英語が得意な生徒は、話すスピードがどんどん速くなっていきます。この活動を続けていくと、素材文の要約をいきなり書かせても、ある程度自分の言葉で書けるようになります。それらの活動を通じて、授業で集中して学べば、英語力は伸びることを実感できるようにしています。

1・2年次に年1回受験する「GETEC」も、生徒に英語力の伸びを実感させる機会にしています。「GETEC」のスピーキングテストの過去問題を参考に作問した文章題を

定期考査で出題したり、「GTEC」を初めて受検する1年生には、スピーキングテストを受検している先輩の様子が分かる動画を見せたりして、受検への意識づけをしています。

●成果と展望

日常会話を英語で話せるようになりたいと思う生徒が増加

授業の成果は、「GTEC」のスコアの伸びにも表れています。特にスピーキングは、CEFR(＊2)のA2に達する生徒の割合が、1年次は約4割だったのが、2年次には7割以上となった学年もあります。生徒対象のアンケートで、日常会話を英語で話せるようになりたいと答える生徒が、学年が上がるに連れて増えているのもうれしい限りです。

英語を学ぶことで、興味や関心が世界に向き、視野が広がります。たとえ外国に行かなくても、日々の生活は外国と深くかかわっています。そうした時代を生きる子どもたちが、世界の人々と協働するためのツールとしての英語をワクワクしながら楽しく学べるよう、これからも尽力していきたいと思っています。

単元の指導計画

【教科・科目】英語・英語コミュニケーションⅠ 【分野・単元】Lesson6 Washoku・関係代名詞 【テーマ・作品】和食 【設定時数】全9時間(本時は4時間目) 【単元目標】和食に関する知識を得て、それを自分の言葉(英語)で人に伝えることができる。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	・世界の食文化について知る ・関係代名詞主格の理解	・ペアやグループの活動に積極的に参加している。 ・例文を参考にして文法の法則を導き出そうとしている。 ・仲間と協力して問題を解決しようとしている。 【思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】	①ペア・グループでウォームアップ ②新出単語の復習 ③新出文法事項の理解 ④本文の理解度チェック	【主体的な学び】 指示された活動に、積極的に取り組んでいるか。授業の最初と終わりで自分の伸びを確認させる。 【対話的な学び】 ペアやグループの活動で積極的に自分の分かったことや意見を述べているか。 【深い学び】 「分かる」で満足せず、「できる」ようになるための活動に積極的に取り組んでいるか。	自己評価
2	・世界の食文化について知る ・教科書の内容をアウトプットする	・ペアやグループの活動に積極的に参加している。 ・仲間と協力して問題を解決しようとしている。 ・ヒントを基に自分の今の実力で英語を話す。 【判断力、表現力、主体性、協働性】	①ペア・グループでウォームアップ ②新出単語の復習 ③本文の速読・速解の訓練 ④本文の理解度チェック ⑤本文のアウトプットの練習		自己評価
3	・和食の特徴を知る ・関係代名詞目的格の理解	・ペアやグループの活動に積極的に参加している。 ・例文を参考にして文法の法則を導き出そうとしている。 ・仲間と協力して問題を解決しようとしている。 【思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】	①ペア・グループでウォームアップ ②新出単語の復習 ③新出文法事項の理解 ④本文の理解度チェック		自己評価
4	・和食の特徴を知る ・教科書の内容をアウトプットする	・ペアやグループの活動に積極的に参加している。 ・仲間と協力して問題を解決しようとしている。 ・ヒントを基に自分の今の実力で英語を話す。 【判断力、表現力、主体性、協働性】	①ペア・グループでウォームアップ ②新出単語の復習 ③本文の速読・速解の訓練 ④本文の理解度チェック ⑤本文のアウトプットの練習		自己評価
5	・日本食の材料がどこから来ているのかを知る ・関係代名詞 what を理解する	・ペアやグループの活動に積極的に参加している。 ・例文を参考にして文法の法則を導き出そうとしている。 ・仲間と協力して問題を解決しようとしている。 【思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】	①ペア・グループでウォームアップ ②新出単語の復習 ③新出文法事項の理解 ④本文の理解度チェック		自己評価
8	・食文化を守るために行われていることを知る ・教科書の内容をアウトプットする	・ペアやグループの活動に積極的に参加している。 ・仲間と協力して問題を解決しようとしている。 ・ヒントを基に自分の今の実力で英語を話す。 【判断力、表現力、主体性、協働性】	①ペア・グループでウォームアップ ②新出単語の復習 ③本文の速読・速解の訓練 ④本文の理解度チェック ⑤本文のアウトプットの練習	自己評価	
9	・まとめ ・文法事項の総復習	・ペアやグループの活動に積極的に参加している。 ・仲間と協力して問題を解決しようとしている。 【思考力、主体性、協働性】	①ペア・グループでウォームアップ ②文法事項の復習 ③練習問題		自己評価

※内野先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全9時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(https://berd.benesse.jp/)からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

＊2 ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages)の略称。語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会が発表。A(基礎段階の言語使用者)、B(自立した言語使用者)、C(熟達した言語使用者)ごとに2レベル、計6レベルが設定されている。